

平成31年度全国学力・学習状況調査
柏原市における結果の概要について

柏原市教育委員会

【全国学力・学習状況調査の概要】

1. 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象学年

小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒

3. 調査内容

(1) 教科に関する調査(小学校・・・国語、算数)(中学校・・・国語、数学、英語)

※今年度からA問題(主に知識)、B問題(主に活用)と区分されずに調査問題が一体化された。

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

(3) 児童生徒に対する調査

(4) 学校に対する調査

※調査問題については以下の国立教育政策研究所のホームページ内に掲載されています

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

平成31年度全国学力・学習状況調査結果(全体1)

今年度の結果

小学校

	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	全国 (正答率)
国語	62	60	63.8
算数	67	66	66.6

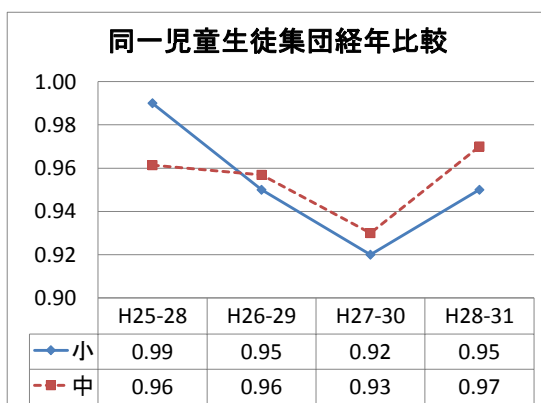
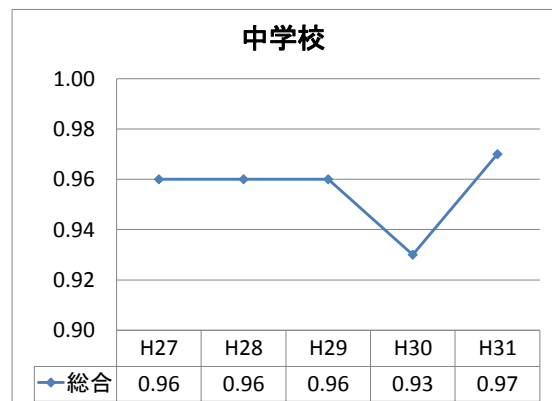
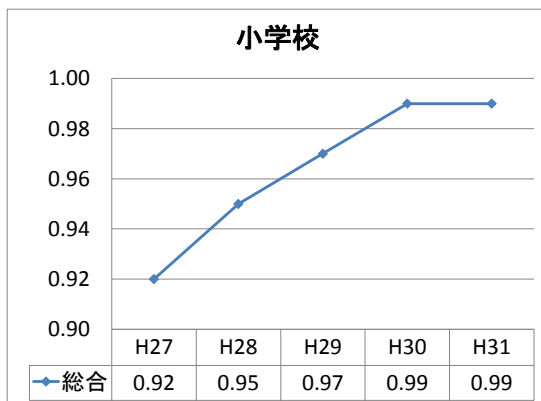
中学校

	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	全国 (正答率)
国語	70	70	72.8
数学	58	58	59.8
英語	54	56	56

小学校において、国語は全国平均を下回ったが、大阪府平均は上回った。算数は僅差ではあるが全国・大阪府ともに上回った。
中学校において、国語・数学については、大阪府平均と同値となったものの全国よりは下回っている。英語については、全国平均及び大阪府平均ともにやや下回る結果となった。

5年間推移(全国比)

※全調査(不定期実施の理科と英語を除く)を総合した平均正答率を算出し、全国の平均正答率を1として表したもの



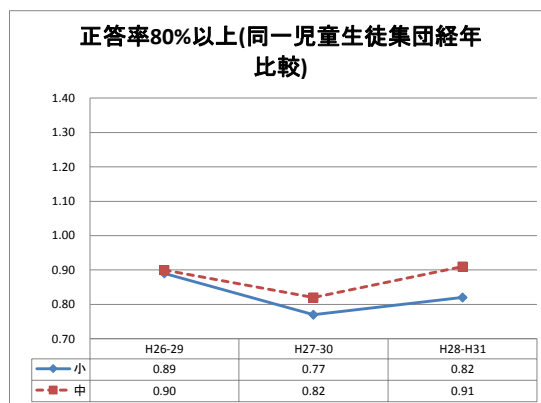
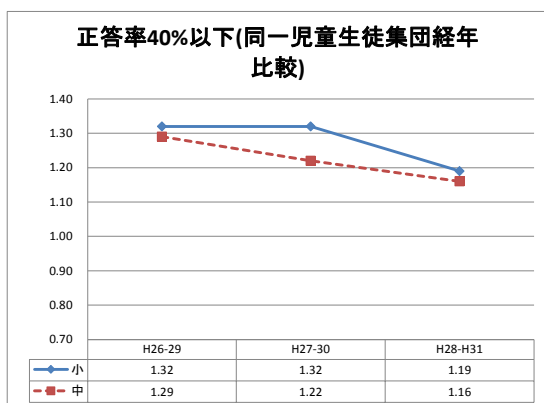
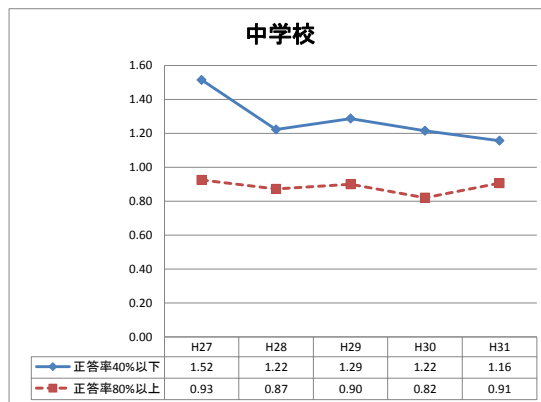
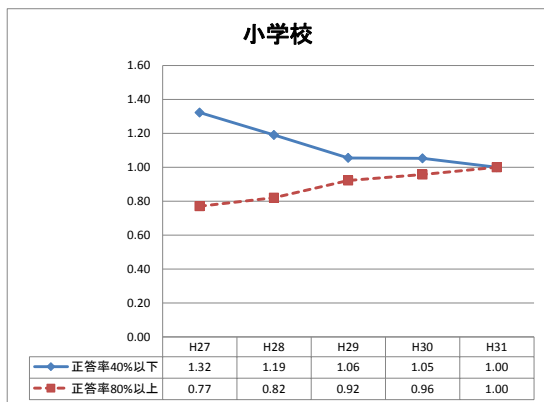
← (左記グラフの見方について)
H25-H28・・・平成25年度の小学第6学年を青、その児童が中学第3学年になった平成28年度を赤で示している。

小学校は、平成27年度以降、上昇傾向にあり全国比に近づいている。中学校は、横ばい推移していた状態から昨年度低くなったが、今年度は過去5年間で最も高くなった。同一児童生徒集団による経年比較では、平成26年度より中学校入学以降、正答率は向上していることがわかった。特に今年度は2%の向上と成果が現れている。

平成31年度全国学力・学習状況調査結果(全体2)

正答率40%以下・80%以上の児童生徒割合の推移(全国比)

※柏原市内における正答率40%以下(低位層)・80%以上(上位層)の児童生徒の割合を算出し、全国の割合を1として表したものの



小学校においては、正答率40%以下の割合が減少傾向、正答率80%以上の割合が上昇傾向にあり、今年度はどちらも全国値と同等になった。中学校においては、正答率40%以下の割合が減少傾向。正答率80%以上の割合は、この5年大きな変化はない。

同一児童生徒集団での経年比較では、正答率40%以下の割合は中学校入学後、さらに減少し、正答率80%以上の割合は中学入学後に上昇しており、「書く力の育成」をねらった取組み等の成果が表れている。

小学校国語

問題別調査結果

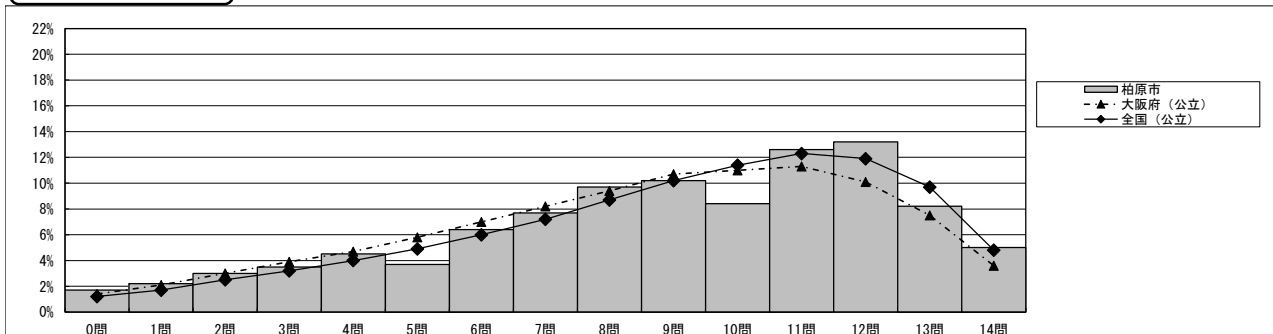
分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
	全体	14	62	60	63.8	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.4	68.8	72.3	
	書くこと	3	53.9	52.9	54.5	
	読むこと	3	81.5	79.3	81.7	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	51.5	48.2	53.5	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	56.8	53.4	57.6	
	話す・聞く能力	3	70.4	68.8	72.3	
	書く能力	3	53.9	52.9	54.5	
	読む能力	3	81.5	79.3	81.7	
問題形式	言語についての知識・理解・技能	5	51.5	48.2	53.5	
	選択式	7	74.4	73.3	75.1	
	短答式	4	45.9	42.8	48.7	
	記述式	3	56.8	53.4	57.6	

○「全体」「領域」「評価の観点」「問題形式」のすべてにおいて、全国の平均正答率には及ばなかったものの、大阪府の平均正答率は上回る結果となった。

▼「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域について大阪府を3%以上上回ったが、全国と比較すると、2%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

正答数分布



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国、大阪府と概ね近い分布傾向にある。

小学校算数

問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
	全体	14	67	66	66.6	
学習指導要領の領域	数と計算	7	65.2	63.4	63.2	
	量と測定	3	50.4	52.0	52.9	
	図形	2	74.8	76.0	76.7	
	数量関係	7	68.6	68.3	68.3	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-	
	数学的な考え方	8	61.4	61.9	62.2	
	数量や図形についての技能	4	74.6	73.2	73.6	
	数量や図形についての知識・理解	2	71.6	70.9	70.1	
問題形式	選択式	5	74.9	75.7	75.7	
	短答式	5	74.8	73.1	72.8	
	記述式	4	46.1	46.4	47.4	

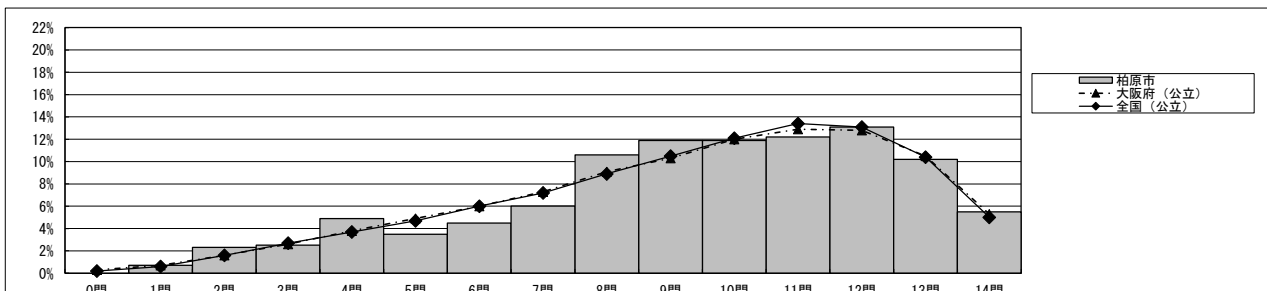
○全体の正答率について、全国・大阪府を上回る結果となった。

▼「図形」「数量関係」の領域について、全国及び大阪府より下回っている。

▼評価の観点では「数学的な考え方」について、全国及び大阪府より下回っている。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

正答数分布



学習指導要領の領域について

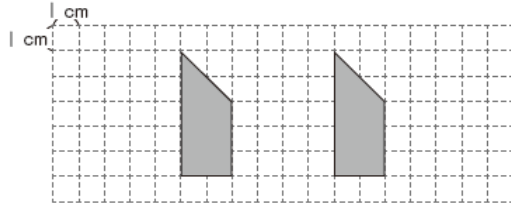
良好な領域	課題のある領域
該当なし	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府の正答数分布と比較的近い分布傾向である。

小学校算数で課題の見られた設問

(2) ちひろさんは、次のように、2つの合同な台形をつくりました。



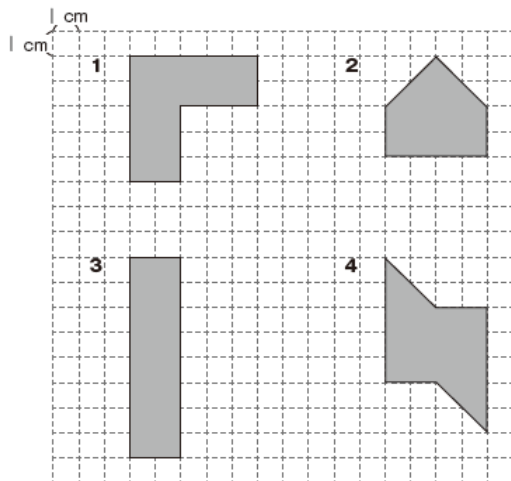
上の2つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせ、いろいろな形をつくります。

どのような形をつくることができますか。

下の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

正答

1. 3. 4



小算-2

★学習指導にあたって★
 「図形の性質や構成要素に着目して、基本的な平面図形を組み合わせて構成した図形を考察することができる力の育成」

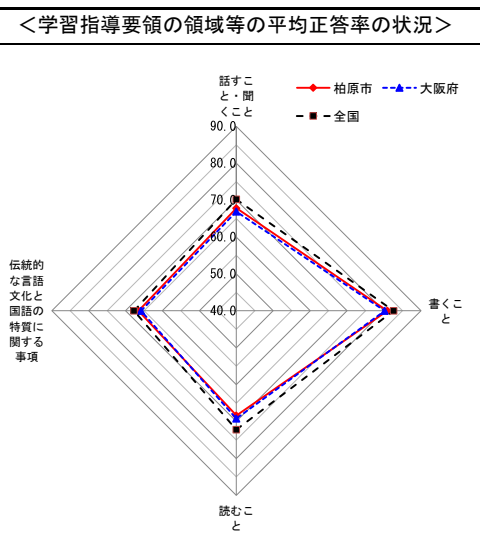
具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが重要である。その際、図形の性質や構成要素に着目して考察することが大切である。

指導にあたっては、本設問のように、二つの合同な図形を組み合わせてできる図形を判断する活動が考えられる。その際、図形の中に二つの合同な図形に分けることができる線を見いだすことができるようにすることが大切である。その上で、見いだした線をもとに、二つの合同な図形に分けることができることを、図形の性質や構成要素に着目して説明することができるようにすることが大切である。

正答率については、本市が55.7%、大阪府が59.2%、全国が60.3%であった。特に選択肢3を選択できていない児童が多い。5年生において台形の面積の公式を理解する中で、以上のような学習指導にあたっての工夫をする必要がある。

問題別調査結果

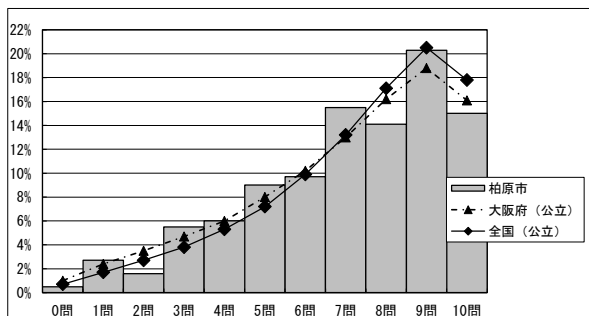
分類	区分	対象設問数(問)	正答率		
			柏原市	大阪府	全国
全体		10	70	70	72.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	67.8	66.9	70.2
	書くこと	2	80.9	80.2	82.6
	読むこと	3	68.4	69.2	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	66.5	65.8	67.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	72.2	72.6	76.5
	話す・聞く能力	3	67.8	66.9	70.2
	書く能力	2	80.9	80.2	82.6
	読む能力	3	68.4	69.2	72.2
問題形式	言語についての知識・理解・技能	2	66.5	65.8	67.7
	選択式	6	71.7	71.4	73.6
	短答式	1	56.7	54.2	56.8
	記述式	3	72.2	72.6	76.5



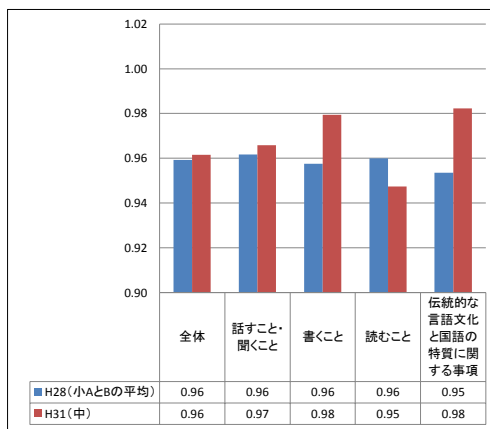
○全体の正答率は、全国を下回っているものの、大阪府と同等の結果になった。
 ○同一児童生徒集団での経年比較では「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について向上した。
 ▼「読むこと」の領域について、全国や府と比べて差があり、また同一児童生徒集団での経年比較でも課題が見られた。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

正答数分布



【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H28-H31)



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
該当なし	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府と比較した際に、8問と10問の正答数が下回っている傾向にあり、上位層が少ないことがわかる。中間層(正答数4~7問)に関しては概ね全国・大阪府を上回っている傾向にある。

中学校国語で課題の見られた設問

※ 左の様式で書き添って下さいませ。解答は必ず解答用紙に書き添えて下さい。

三 場面③の [A] で山下さんは、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを述べようとしています。あだならどどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2に基づいて、簡単に話すように書き添えて下さい。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」とは何を明確に説明して導いて下さい。

条件2 条件1で示した「どうするか決まっていないうこと」を解決する具体的な案を考へて書き添えて下さい。

中国-8

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも多きづらに感じたり、段差に気付かず驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしやいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん
ネットにそのようなニュースが出ていますね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、掲示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと思います。別の表現にはどうでしょうか。

山下さん
そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにはしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけないですね。以前から、私も気になっていました。

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、掲示や発表の場が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん
賛成です。掲示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、掲示や発表の場が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

A
ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりだと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていないうことがありません。

中国-6

二 掲示物の内容

(議題)
地域とのつながりを大切に文化祭にするために
一 生徒会が地域で行っていること
二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

倉田さん 西野さん
「生徒会が地域で行っていること」についての「展示」は、この二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

中国-5

正答例

- ・校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかについては、文化祭に 来てくださる方に対しては、「ここで靴を脱いでお上がり下さい。」のように直すとうよいと思います。皆さんはどう思いますか。
- ・「土足禁止」という表現をどのように直すのかについては、「土足のまま上がることは禁止しています。」とするのが良いと思います。
- ・校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかは決まっています。「禁止」を言い換えた言葉を一人ずつ挙げてみませんか。

★学習指導にあたって★

「話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えを持つことができる力の育成」

話し合いをする際には、話題や方向を適確に捉え、自分の考えを持ちながら参加するように指導することが大切である。

具体的には、小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や記録の仕方などを確認した上で、実際に記録をとりながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられる。その際、話し合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、めざしている到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直ししながら進めるように指導することも効果的である。

正答率については、本市が56.1%、大阪府が56.0%、全国が60.4%であった。また無解答率は11.3%(大阪府は同値、全国は8.9%)と最も高く課題のある設問だった。国語科だけでなく、学級会などの特別活動、他教科等でも意識して取り組む必要がある。

問題別調査結果

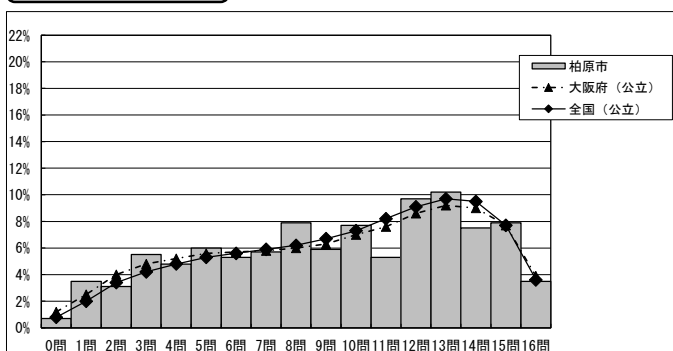
分類	区分	対象設問数(問)	正答率			<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>
			柏原市	大阪府	全国	
全体		16	58	58	59.8	
学習指導要領の領域	数と式	5	62.7	62.6	63.8	
	図形	4	71.0	71.3	72.4	
	関数	3	37.5	39.6	40.8	
	資料の活用	4	53.8	53.8	56.3	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-	
	数学的な見方や考え方	8	49.4	49.7	51.0	
	数学的な技能	3	60.3	62.2	63.9	
	数量や図形などについての知識・理解	5	69.8	69.5	71.3	
問題形式	選択式	5	59.6	59.1	60.3	
	短答式	7	64.0	64.9	66.6	
	記述式	4	44.8	45.7	47.1	

○全体の正答率は、全国を下回っているものの、大阪府と同等の結果になった。
 ○同一児童生徒集団での経年比較では、全体的に伸びが見られ、特に「数学的な見方や考え方」の観点において大きく向上している。

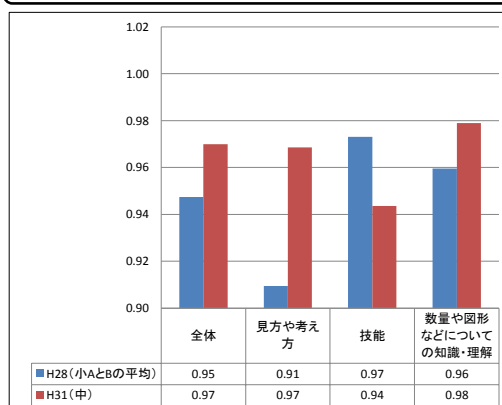
▼「関数」の領域について、府や全国との差があり、課題である。
 ▼同一児童生徒集団での経年比較では、「数学的な技能」の観点において、小学校時と比較した際に乖離が見られた。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

正答数分布



【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H28-H31)



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
該当なし	関数

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

全国・大阪府の正答数分布と比較的近い分布傾向であり、下位層(正答数3問以下)がやや多い。

中学校数学で課題の見られた設問

8 図書委員会では、生徒の読書活動の状況を調べ、図書だよりにまとめようと考えています。そこで、図書委員の航平さんと桃子さんは、全校生徒270人を対象に、最近1か月間に読んだ本の冊数と、1日あたりの読書時間が何分であるかを回答するアンケートを実施しました。

アンケートのお願い	
・最近1か月間で読んだ本は何冊ですか。	(冊)
・1日あたりの読書時間は何分ですか。	(分)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、実施したアンケートをもとに、最近1か月間に読んだ本の冊数について、下のような表にまとめました。下の表において、読んだ本の冊数の最頻値を求めなさい。

最近1か月間に読んだ本の冊数

読んだ本の冊数(冊)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数(人)	13	114	74	30	11	7	4	4	3	4	6	270

正答

1

★学習指導にあたって★

「代表値の必要性と意味を理解し、代表値をもとめることができる力の育成」

目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、資料の代表値を求めることができるように指導することが大切である。

具体的には、本設問のように「図書だよりにまとめる」という目的意識のもと、「全校生徒の1か月間に読んだ本の冊数」のデータを収集し表やヒストグラム(次問)などに表し、代表値を用いて資料の傾向を説明する場面を設定することが考えられる。その際「最頻値」の意味を「何冊読んだ人が一番多いかを冊数で表すもの」という具体的な場面に照らし合わせて理解させることが重要である。

正答率については、本市が52.3%、大阪府が53.3%、全国が57.9%であった。また無解答率は13.7%(大阪府は13.3%、全国10.6%)である。解答類型をしてみると、正答以外は各類型に散らばっており、「最頻値」の意味を理解することができていない生徒が多いことがわかる。

また、「代表値」については次年度学習指導要領改訂において、小学校6年生の内容に新設されており、上記のような指導の工夫を小学校段階から行う必要がある。

問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
全体		21	54	56	56.0	
学習指導要領の領域	聞くこと	7	66.7	66.8	67.9	
	話すこと(※)					
	読むこと	6	53.1	55.3	55.6	
	書くこと	8	43.6	47.4	45.8	
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	-	-	-	
	外国語表現の能力	1	1.3	1.9	1.8	
	外国語理解の能力	6	42.1	44.2	44.7	
	言語や文化についての知識・理解	14	62.9	65.1	64.7	
問題形式	選択式	13	70.0	70.7	71.4	
	短答式	5	41.5	47.7	45.2	
	記述式	3	5.7	7.0	6.8	

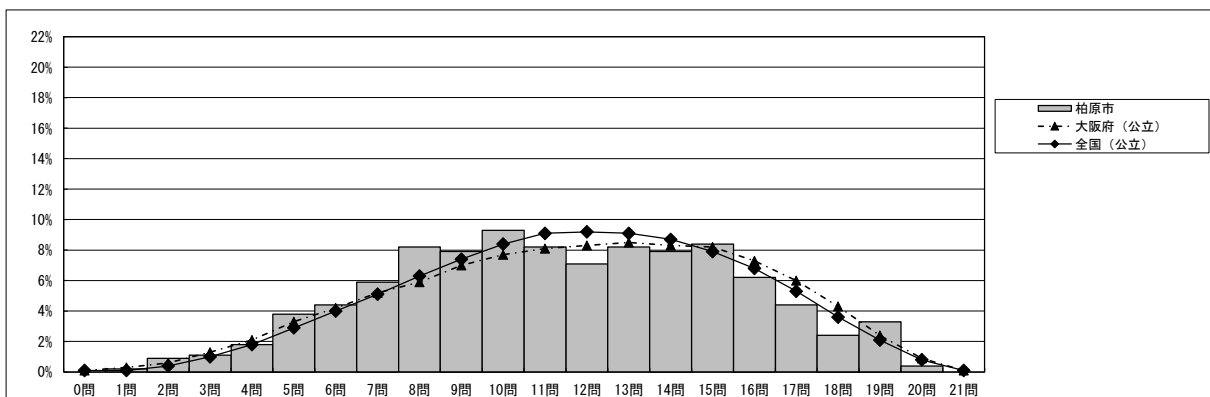
※「話すこと」は、結果の集計・提供は行われず

○「聞くこと」については、府平均とほぼ同値である。

▼「全体」「領域」「評価の観点」「問題形式」のすべてにおいて、全国及び大阪府の平均正答率をやや下回る結果となった。
▼特に「読むこと」「書くこと」の領域については、大阪府や全国から2%以上の差が出ている。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

正答数分布



良好な領域	課題のある領域
該当なし	読むこと 書くこと

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

大阪府や全国に比べて中～上位層(正答数11問～18問)の割合が低い傾向にある。

中学校英語で課題の見られた設問

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome
③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

①

②

③



正答例

① She is from Australia.
She comes from Australia.

② She lives in Rome.

③ She doesn't have any pets.
She has no pets.

★学習指導にあたって★
「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる力の育成」

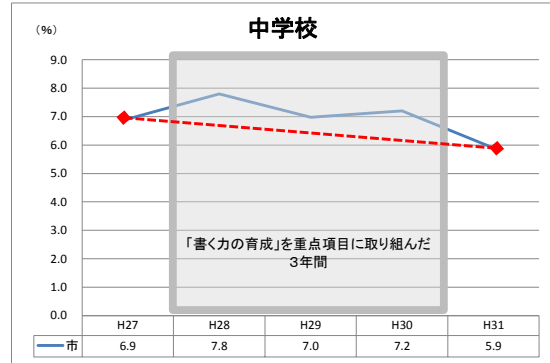
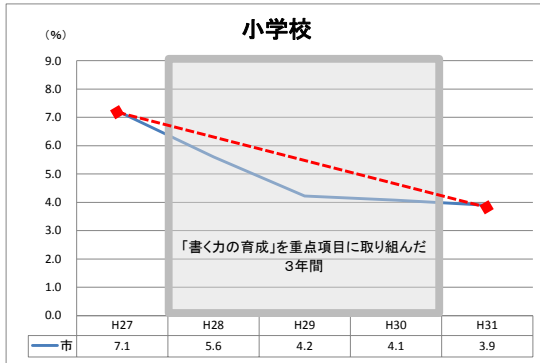
言語材料を正しく用いて、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文に書くことができるように指導することは大切である。その際、特定の言語材料のみを用いて文を書かせるだけではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置づける必要がある。

つまり、生徒に文法規則を書かせたり、説明させたりするだけでは文法を十分に理解しているとは限らず、「文法はコミュニケーション能力の基礎となるもの」ととらえ、実際のコミュニケーションにおいて、その文法事項を用いて正しく英語で表現できたときに「生きて働く知識」を有していると考えなければならない。新学習指導要領では、文法の指導事項にあたって、「コミュニケーションの目的を達成する上でいかに文法が使われているかに着目させ、言語活動と効果的に関連付けて指導することが大切である」とされている。これらのことを踏まえて授業改善を進めていくことが重要である。

特に①に課題があり、正答率については、本市が44.2%、大阪府が55.4%、全国が53.5%であった。また無解答率は13.7%(大阪府は11.1%、全国9.3%)である。

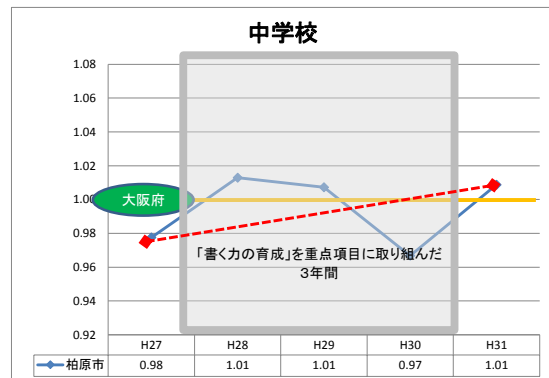
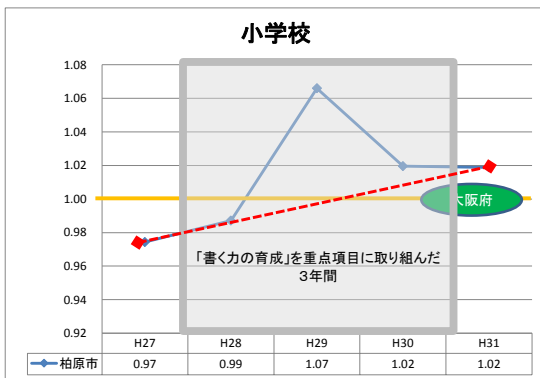
「書く力の育成」(H28~H30)を重点項目とした3年間の検証

無解答率の推移



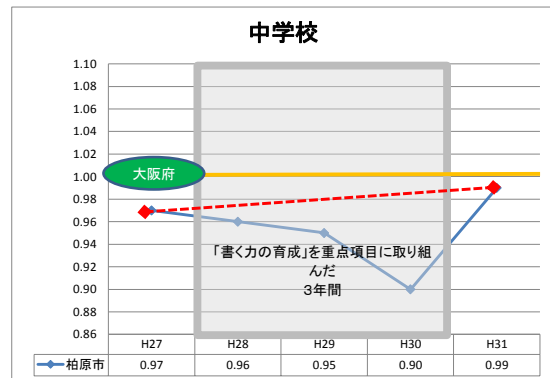
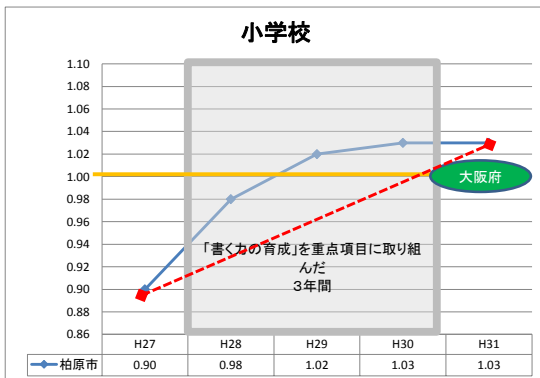
「書く力の育成」を重点項目に取り組み始める前年度の平成27年度と、取り組みをした3年間を経た今年度の結果を比較した。小中学校ともに無解答率が減少している。特に小学校では、「書くこと」に対する抵抗感の減少や、最後まで問題を解こうとする意欲の向上等、取り組みの成果が表れた。

「書くこと」の領域における正答率(大阪府比)の推移



平成28年度より、「書く力」を市のテーマと位置付けて取り組んだ3年間を経たグラフである。小学校については、平成29年度より大阪府を上回る結果となり成果が出ている。中学校については、昨年度に平成27年度よりも更に下回る結果となったが今年度は上回り、全体的に向上傾向にある。

「記述式」問題における正答率(大阪府比)の推移



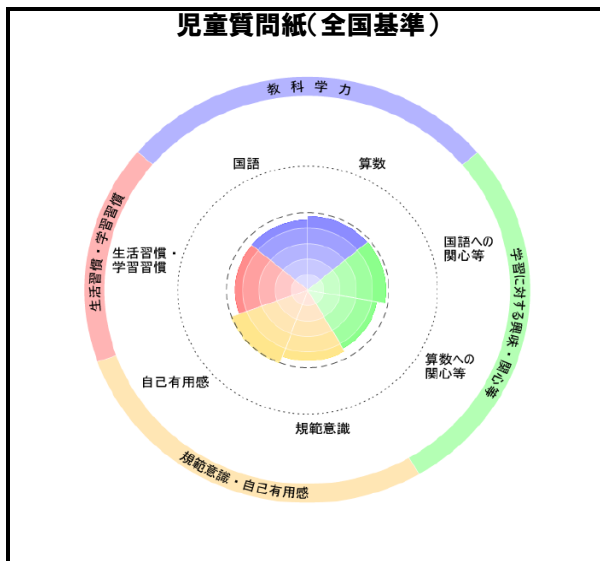
小、中学校ともに向上傾向にあり、特に小学校では「書く力」の育成に対する成果が出ていると思われる。

質問紙調査のクロス分析(文部科学省報告書より)

※全国平均は破線部分、柏原市平均は色つき部分

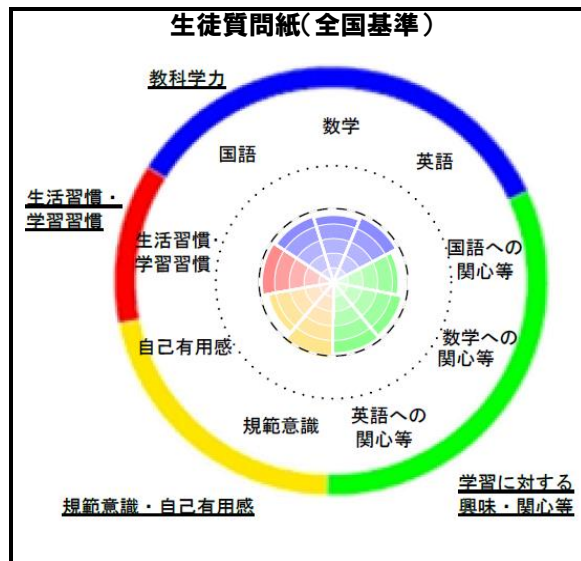
[小学校]

児童質問紙(全国基準)



[中学校]

生徒質問紙(全国基準)



☆下記のように回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- ・学級の友達と[生徒]の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う
- ・授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う
- ・学級生活をよりよくするために学級会[学級活動]で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う
- ・5年生まで[1, 2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う
- ・5年生まで[1, 2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う

②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

- ・自分にはよいところがあると思う
- ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- ・学校に行くのは楽しいと思う
- ・学校のきまり[規則]を守っている
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う

③地域や社会に関する調査関連

- ・今住んでいる地域の行事に参加している
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う
- ・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う

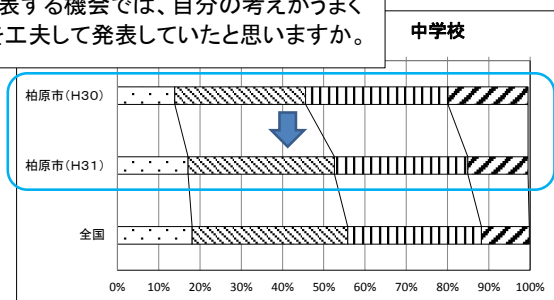
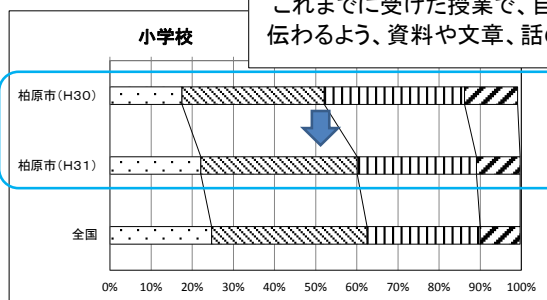
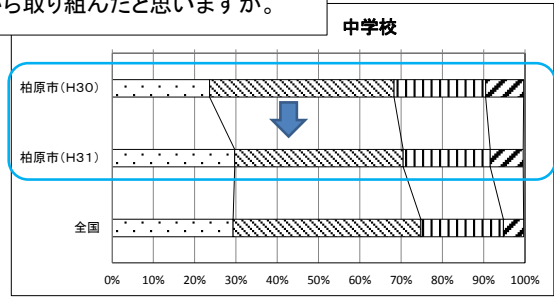
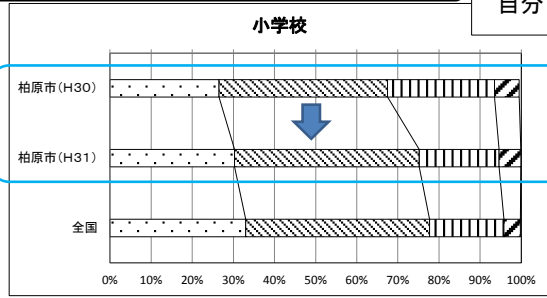
アンケート結果 1 (—児童・生徒質問紙調査より—)

平均正答率が高い傾向のある質問
(クロス分析より)

※特記事項を除き、横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

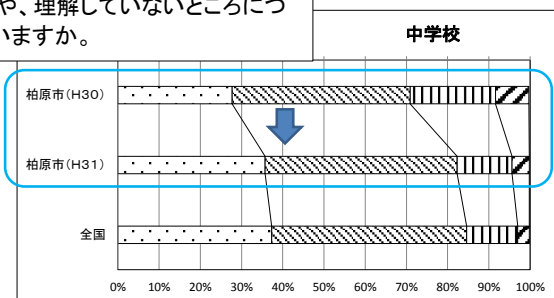
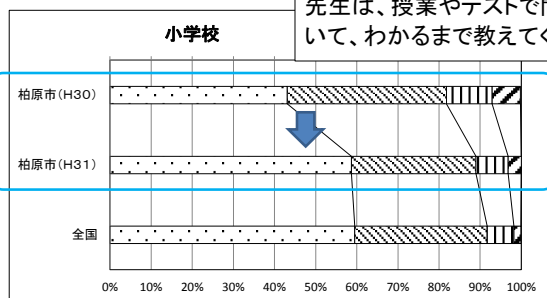
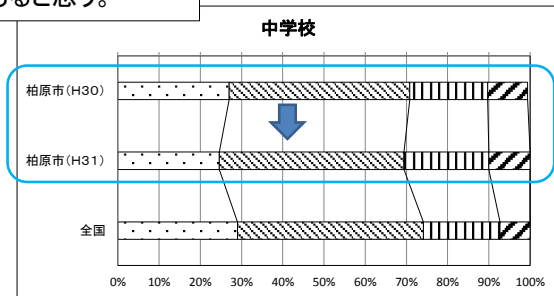
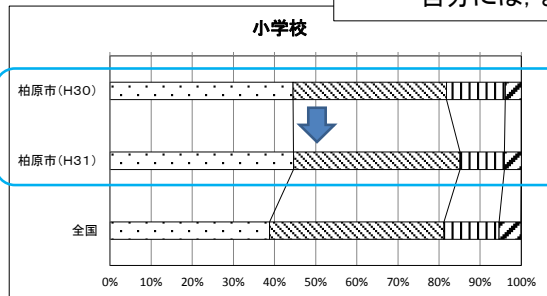
主体的・対話的で深い学びの視点

これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと思いますか。



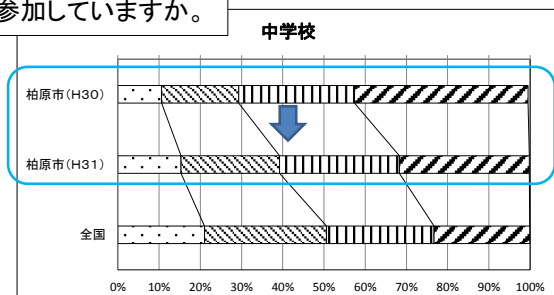
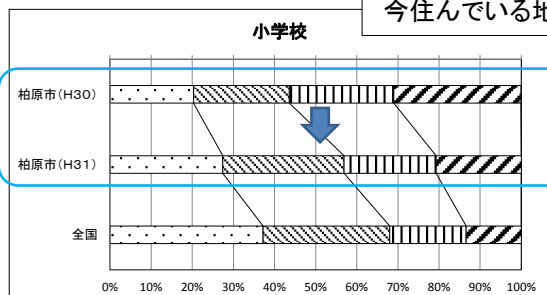
自尊感情等

自分には、よいところがあると思う。



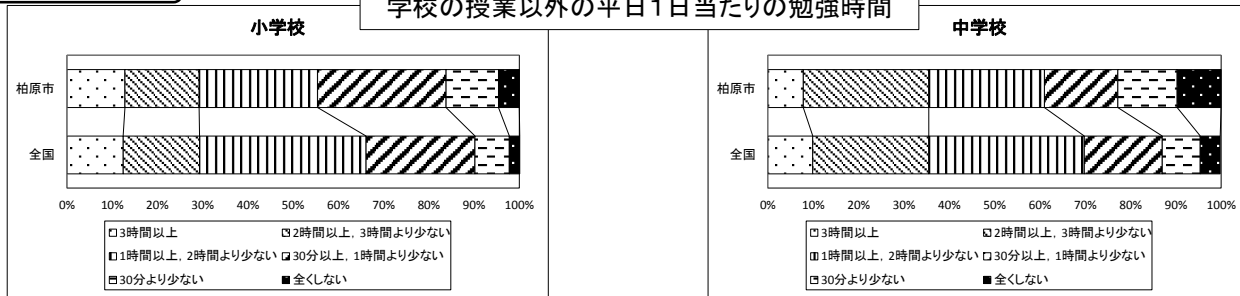
地域との関連

今住んでいる地域の行事に参加していますか。



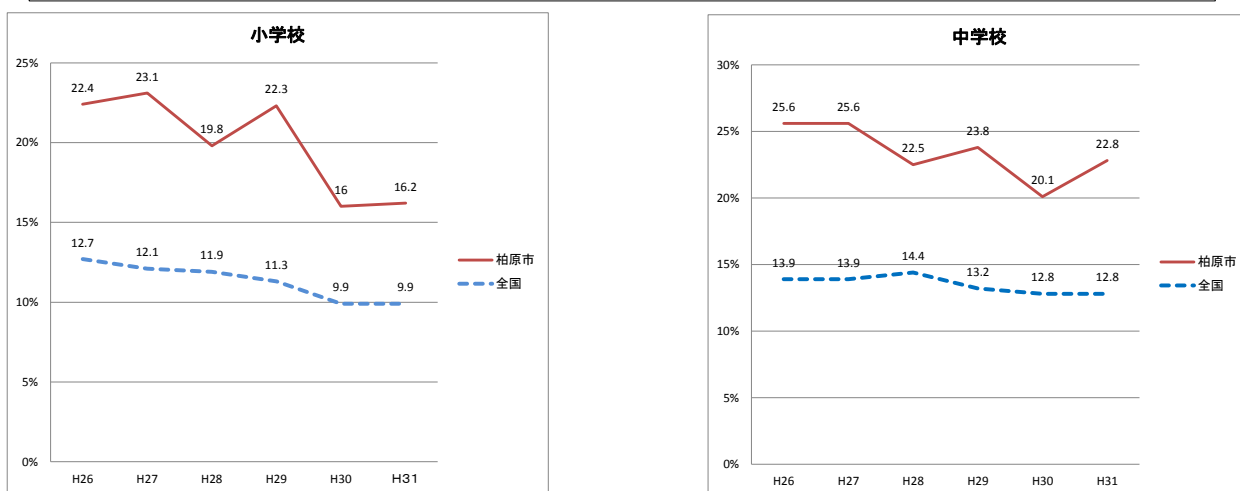
学習習慣

学校の授業以外の平日1日当たりの勉強時間



学習習慣 (H27年度～H31年度)

学校の授業以外の平日1日当たりの勉強時間が「30分より少ない」または「全くない」児童・生徒の割合



1. 文部科学省による平均正答率が高い傾向が見られる質問事項(学力との相関関係のある質問)について

○「主体的・対話的で深い学びの視点」の質問に対して、肯定的回答をしている児童・生徒が昨年度から小中学校ともに増加しており、全国平均にせまってきている。求められている授業力向上について、徐々に意識することができていることがわかる。

○「先生は授業やテストで間違えたところや理解できなかったところをわかるまで教えてくださいませんか。」に肯定的回答をしている児童・生徒が小中学校ともに大幅に増加している。教師が児童・生徒の「個に応じたきめ細やかな指導」に取り組んでいることがわかる。

▼「自分にはよいところがある」と回答した割合が小学校では昨年度から増加。全国平均を上回ったが、一方で中学校ではやや減少、全国平均を下回った。

2. 学習習慣について

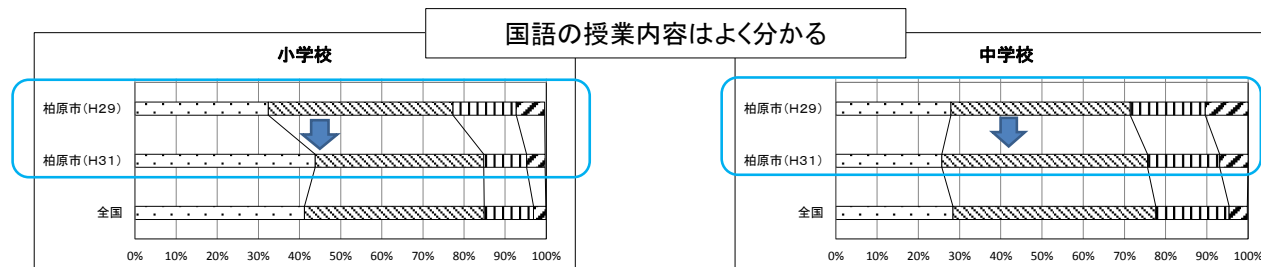
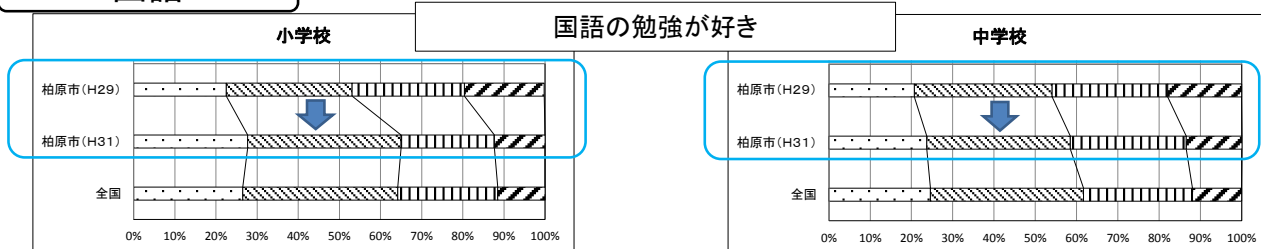
▼学校の授業以外での勉強時間が30分より少ないまたは学校の授業以外で勉強を全くない児童・生徒の比率が全国より高く、学習習慣が確立していないと考えられる。過去5年間を比較すると、学校の授業以外での勉強時間が30分より少ないまたは全くない児童生徒の比率が、昨年度まで減少していたが、今年度は小中学校ともにやや増加している。

アンケート結果 3 (—児童・生徒質問紙調査より—) ※「英語」は中学校調査のみ 各教科

※特記事項を除き、横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

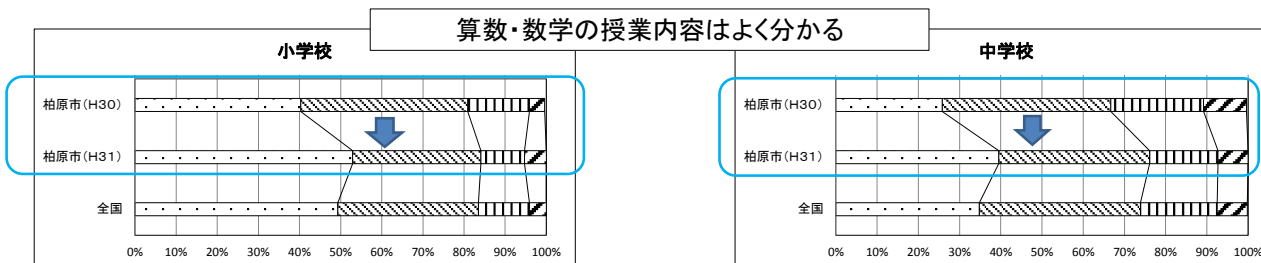
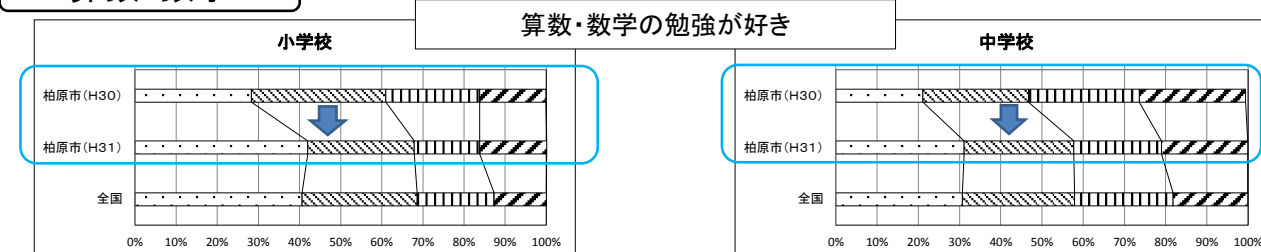
国語

※H30年度は調査項目がないため、H29年度と比較



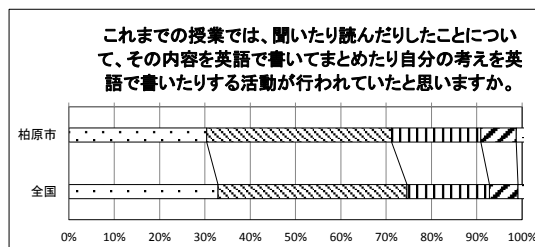
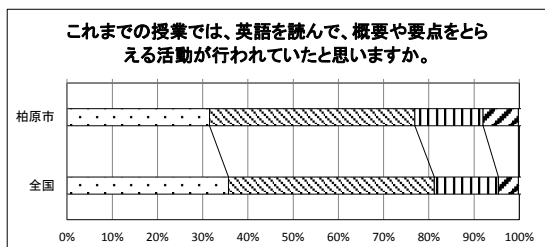
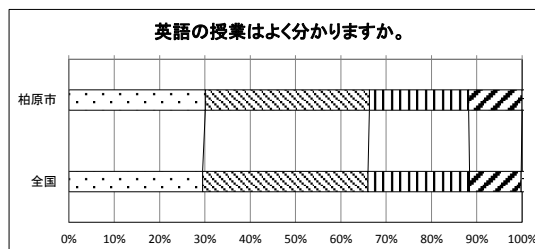
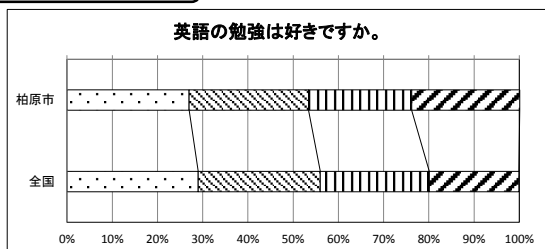
算数・数学

※H30年度と比較



英語

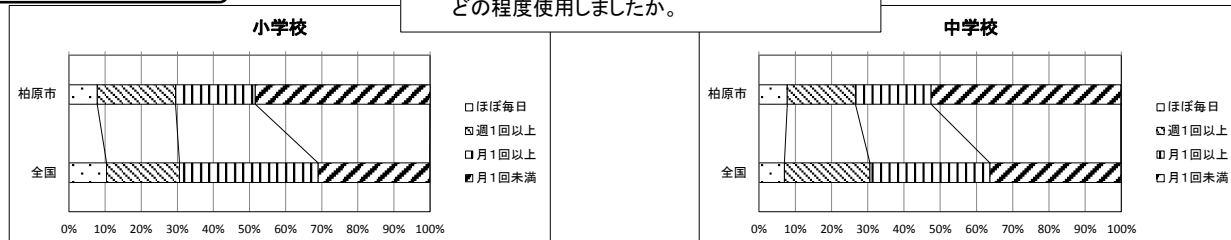
※中学校、H31年度のみ



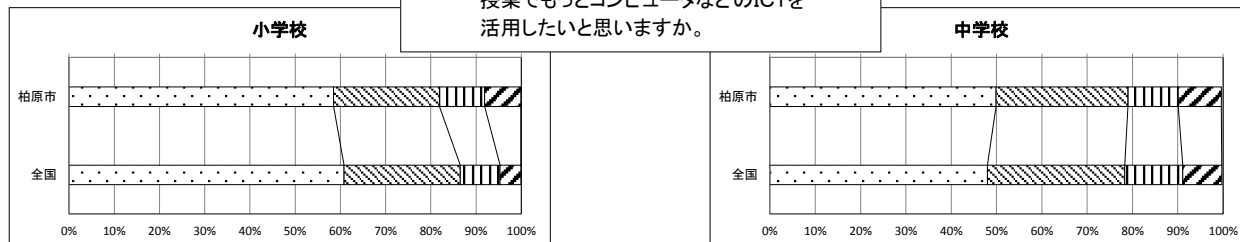
※特記事項を除き、横棒グラフの左から「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」、「あてはまらない」と表記している。

ICTについて

これまでの授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。

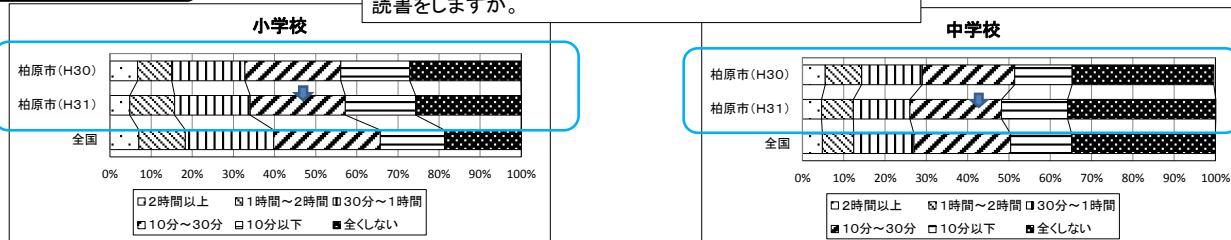


授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか。

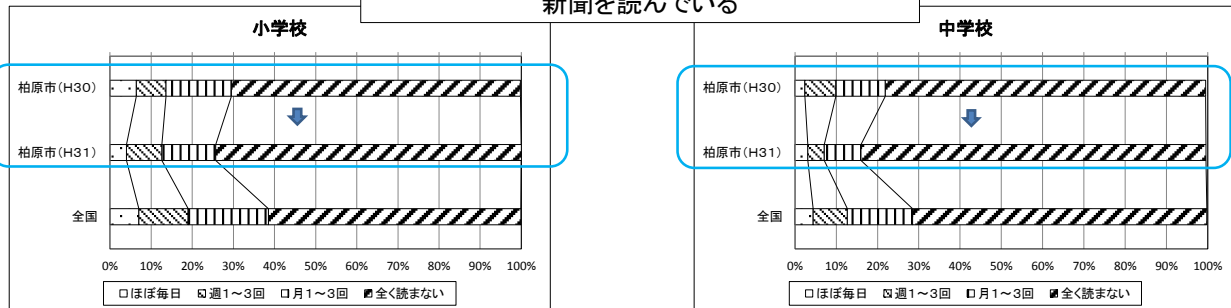


読書等

学校の授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



新聞を読んでいる



3. 各教科について

○小・中学校の「国語」「算数・数学」ともに「勉強が好き」「授業内容がよく分かる」という質問に対して肯定的回答をした児童・生徒が昨年度(国語については平成29年度)より上昇し、概ね全国平均と同等の結果が出ている。

○中学校英語については、「勉強が好き」という質問に対しての肯定的回答が全国平均よりやや下回ったが、「授業内容がよく分かる」という質問に対して肯定的回答は全国平均と同等の結果であった。

▼中学校英語について、「授業がよく分かる」が全国平均と同等である一方、授業の「活動内容」の具体についての回答は、全国平均を下回っている。これは今求められている「授業づくり」について課題があることがわかる。

4. ICT、読書等について

▼これまでの「ICT活用」について課題が見られた。現在行っているICTの整備及びその授業づくりについて取組みを進めることで、改善を期待したい。

▼「新聞を読まない」児童・生徒について、昨年度よりも増加している。

○これまでの柏原市及び教育委員会の教育計画

平成23年 「第4次柏原市総合計画」策定
 平成26年 「柏原市教育振興基本計画」策定
 平成28年 「かしわらっ子はぐくみプラン(第1期柏原市学力向上3ヵ年計画)策定
 平成29年 「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」策定
 平成31年 「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上3ヵ年計画)策定

上記の「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」と「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上3ヵ年計画)」において、その成果指標として、「平均正答率と正答率40%以下及び80%以上を全国並みにする」としました。

○本年度の結果

①平均正答率(全国を1.00として)

項目(平均正答率)			H27	H28	H29	H30	H31(R1)	目標値
小学校	国語	A	0.92	0.96	0.98	0.99	0.97	1.00以上
		B	0.90	0.96	0.92	0.97		
	算数	A	0.96	0.96	0.99	0.99	1.01	1.00以上
		B	0.89	0.93	0.96	0.99		
中学校	国語	A	0.98	0.97	0.97	0.97	0.96	1.00以上
		B	0.99	0.96	0.94	0.93		
	数学	A	0.94	0.97	0.98	0.94	0.97	1.00以上
		B	0.92	0.94	0.94	0.87		

※H31(R1)年度からAとBが一体化。理科と英語は3年ごとの調査なので省く。

②正答率40%以下及び80%以上の経年変化については2ページを参照

【評価】

小学校では算数において目標値を達成した。中学校数学について昨年度より伸びが見られ、国語については小中ともにまだ全国平均とは開きがある。正答率40%以下の割合、80%以上の割合においては中学校は徐々に目標値にせまっており、小学校は目標値を達成した。

○「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上3ヵ年計画)」について

「かしわらっ子はぐくみプラン」では、今年度より「すべての子どもたちに確かな学力を！！～教育委員会・学校・家庭が連携した取組の推進～」を目標に、柏原市では新たに平成31年度より学力向上に向けて、3つのテーマと7つの取組を進めていきます。以下には今年度の全国学力・学習状況調査から課題等の見られた内容についての取組をまとめます。

1. 繋がりのある学び

取組②:「書く力」や「読み取る力」の向上を図る「わかる授業」づくり

- ・「記述式」問題に向けた授業づくり研修の実施
- ・各校の授業研究会等での指導助言
- ・ルーブリック等の研究・作成に向けた助言

取組③:英語教育の推進

- ・英語教育推進委員会を中心に、系統だった年間研修計画の立案と実施
- ・外国語教育の研修の充実
- ・ALTの配置

2. ビジョンのある研修

取組④:研修の充実・推進(ICTを活用した授業づくりの研修を含む)

- ・新学習指導要領の趣旨に沿った「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る研修の充実
- ・経験の浅い教員を対象とした「フレッシュ研修」の実施
- ・ICT機器の整備及び活用に関する研修の実施
- ・ICT活用推進委員会及びICT教育推進リーダー会議の設置・運営

3. 広がりのある連携

取組⑥:家庭学習習慣の定着

- ・学校や家庭に向けた啓発

取組⑦:読書習慣の定着

- ・学校司書の配置と学校図書館支援指導員の派遣
- ・市立図書館との連携
- ・「子ども読書活動推進計画」の啓発

○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・特に全国学力・学習状況調査問題や結果をもとにした授業改善についての研修を進める
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
 - ・経験年数の多い先輩教員の授業参観及び、協議に参加(年3回)
 - ・学校公開にて、授業の参観及び取組み報告会に参加(年3回)
- ・「書く力の育成」「書くための読む力の育成」をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施する

○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・特に全国学力・学習状況調査の分析結果を、授業改善や各取組みに活かす
- ・教科横断的に「書く」機会を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切に、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる
- ・英語教育推進教員を中心に、中学校における英語、小学校における外国語教育を充実させる
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、ICTを活用した教育を充実させる
- ・各学校の部活動の在り方に関する方針に則り、子どもに適切な休業を確保しながら基本的生活習慣の確立を図る

○家庭にお願いすること

- ① 基本的生活習慣の定着
 - ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
 - ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
 - ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる
- ② 家庭学習習慣の定着
 - ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
※中学第1学年生徒は、7年生とする
 - ・毎日の宿題ができているかを確認する
- ③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り
 - ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
 - ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する